
境界線

猫乃アキヒト

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

境界線

【Nコード】

N2476S

【作者名】

猫乃アキヒト

【あらすじ】

こんなに安っぽい、触れば壊れそうな、黄色と黒色の細い棒が、君と僕の境目。

赤い目玉が左、右、左、右、左。黄色と黒色の境界線が、君と僕の間を遮る。

長い長い鉄の化け物が走る間、君の姿が見えなくなる。けれど、この化け物が通り過ぎても、境界線の向こうに君がまだいる確信があった。根拠はどこにも無いけれど。

化け物が通り過ぎた境界線の向こう、紅いコートを着た君が、ニツコリと笑っていた。

「おはよう。それともこんにちは、かな」

「時間的にはこんにちはだけど、深夜のバイトに入ってて、さつき起きた所なんだ」

「じゃあ、おはようだね。あと、おつかれさま」

「おはよう。深夜のバイトっていつても、ただ店に居るだけで良いんだ。お客さんなんて滅多にこないから」

境界線を挟んだまま、他愛の無い会話をする。

カーブミラーに、黒色の半袖のＴシャツを着た僕が映る。

「身長、ずいぶん高くなったね。私と変わらなかったのに」

「だから男の方が成長期は遅く来るんだって。卒業までにはもっと伸びるよ」

「今何年生だっけ？ 二？」

君が指を折りながら数える。まだ片手で数えられるのに、僕はこんなにも変わってしまった。

「そっか、二年の夏休みかー。良いな、私もバイトしてみたかった」
「たまたま僕の所が楽だったただだよ。クラスの皆はもっと大変だって言ってた。大変なのに僕より時給が低いって悔しがってるものいるよ」

「むう。仕事選びも大変ね」

まったくだよ。と僕は笑った。

境界線は決して上がってくれない。君と僕の間、いつまでも在り続ける。

こんなに安っぽい、触れば壊れそうな、黄色と黒色の細い棒が、君と僕の境目。

中学二年生の冬から、三年間。そしてこれからもずっと、君と僕の間、境界線は在り続ける。
ずっと。

ずっと。

カン、カン、カン、カン。と耳障りな音が空に響く。

「……今日はもうおしまいだね」

「うん。ごめんね。今日だって分かってれば、もっと早くに来ただけ」

「仕方ないよ、お盆休みは長いから」

「次は冬だね。必ず早くに来る」

「うん。それじゃあ、また」

君は惜しむように手を振る。

赤い目玉が左、右、左、右、左。鉄の化け物が君の姿を隠してしまふ。

今度この化け物が通り過ぎたら、そこにもう君はいない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2476s/>

境界線

2011年4月5日18時38分発行